

# ユニセフ募金にご協力ください

## ～世界の子どもたちのために～

We Support



大阪よどがわ市民生協は、世界中の子どもたちが十分なケアを受け、よりよい人生のスタートがきれるよう、ユニセフ募金に取り組んでいます。

この時期、世界の子どもたちのために「ユニセフ募金」を呼びかけています。2024年度のユニセフ募金総額は51万6,700円でした。ご協力ありがとうございました。

### ユニセフ(国連児童基金)とは

ユニセフは、世界の子どもたちの命と権利を守る主要な機関として、約190の国と地域で活動を行っています。今回お預かりする募金はユニセフの定めた優先順位に応じて、世界各地のユニセフの活動に活用される「一般募金」とミャンマーの栄養支援プログラムに活用される「指定募金」となります。大阪よどがわ市民生協で集められた募金はミャンマー指定募金として活用します。

#### ユニセフ募金の流れ

組合員のみなさん

ご加入の生協

日本ユニセフ協会

ユニセフ本部(ニューヨーク)

ユニセフ現地事務所

世界の子どもたち



©UNICEF/UNI638107Himu

洪水の後、感染症にかかり、診療所で治療を受けた子どもとお母さん(バングラデシュ)

### 募金でできる支援例



3円

子どもたちの免疫力を高め、感染症にかかりにくくする

**ビタミンA カプセル1錠**



53円

重度の栄養不良からの回復に役立つ

**栄養治療食 1袋**



245円

10リットルの水を貯水・運搬できる折り畳み式の

**貯水容器1つ**



©UNICEF  
貯水容器

※2025年1月時点の価格です  
※輸送や配布のための費用は含まれていません

### 募金方法

(受付期間11月4回～12月3回)

11月4回～12月3回のOCR注文書の募金カンパ欄で受付いたします。eフレンズでもお申込みいただけます。

eフレンズトップページ  
「テーマから探す」の「募金」を  
ご確認ください。

※集められた募金はミャンマー指定募金として活用します。  
※お預かりした募金は税額控除の対象とはなりません。予めご了承ください。



©UNICEF/UNI793779/Htet

ミャンマーのこどもたち

募金カンパ欄	1416	千	百	円
		㊦	㊦	
	1417	千	百	円
	ユニセフ募金	㊦	㊦	

雑貨過去利用

募金カンパ欄1417に  
口数をご記入ください。

「1」と記入すると  
1口100円の募金となります  
(100円単位)



大阪よどがわ市民生活協同組合

〒564-0015 大阪府吹田市幸町4-1 TEL: 06-6319-5619(月～金 9:00～17:00)

# ミャンマー指定募金による支援活動例

※2024年度（10年目）の募金は2025年7月～2026年6月に現地で活用されます。

## ミャンマーの女性と子どものための栄養支援プログラム

ミャンマーでは、慢性的な栄養不良に苦しむ子どもの割合が高く、母親である女性たちの乳幼児に対する食習慣についても知識が十分に行き届いていません。

また、2021年2月の政治的危機以降、経済が混乱し、食料価格も高騰しています。2025年3月にミャンマー中部を襲った大地震の影響も大きく、残念ながら子どもたちの栄養状態は悪化していると考えられます。

このプログラムでは、ミャンマーの栄養状況の良くない地域で暮らす子どもたちのために、地域の保健ボランティア等への栄養指導の研修や微量栄養素の提供などを引き続き実施します。



©UNICEF Myanmar/2025

### 具体的な活動例

1. 質の高い栄養指導を行う医療従事者・保健ボランティアの育成
2. 微量栄養素（ビタミンやミネラル）を乳幼児に配布
3. 栄養不良児の早期診断と栄養治療食等による治療の提供
4. 栄養改善に向けた意識・行動変容のための広報活動

### 2015～2023年度の募金（第1～9期）の活動・成果例

現地での活動期間：2016年7月～2025年6月

- ・ 8,232人の医療従事者や保健ボランティア等へ“乳幼児の栄養改善”についての研修を実施
- ・ 約69,700人の子どもに微量栄養素（ビタミンやミネラル）パウダーを提供
- ・ 栄養治療食などで栄養不良に苦しむ子ども2,871人を治療
- ・ 乳幼児の栄養改善カウンセリングを約92,900人のお母さんへ

※2021年2月以降の政治的混乱後もユニセフは活動を継続していますが、政治的に中立の立場で、国内外のNGOや地域の保健団体等とのパートナーシップを通じて支援活動を行っています。

### ミャンマー： 支援の現場から

## 家族を救った栄養支援

エーヤワディ管区カ・ニン・グ村。ささやかな竹づくりの家の外で、未っ子を膝の上に抱くドー・キン・タイ・ルインさん。目を潤ませながら、息子を失うかもしれないと思った恐怖を話してくれました。

ドー・キン・タイ・ルインさんは、4人の子を持つお母さんです。夫は日雇いで、どんな仕事でもやりますが、手取りはわずかです。栄養価の高い食事はおろか、米を買うのもやっとの日が続いていました。

「授乳できるときは授乳しましたが、十分ではありませんでした。」

そんなときにはじまったのが、ユニセフの支援でした。保健ボランティアが一軒一軒を訪ねながら、子どもたちを健診に連れてくるよう家族に呼びかけました。ためらうことなく息子を連れていくと、生後18ヶ月のマウン・チャウ・テツちゃんは重度の急性栄養不良であったことが判明しました。上腕の太さはわずか11.3cm、非常に危険と診断されました。

「そう言われたとき、胃がキリキリと痛んだことを覚えています。手遅れだったらどうしよう」と

支援により、手遅れにはならず、マウン・チャウ・テツちゃんは、すぐに外来治療に登録され、栄養治療食を受け取りました。



©UNICEF/Myanmar/2025

ドー・キン・タイ・ルインさんと未っ子のマウン・チャウ・テツちゃん

「保健ボランティアは、栄養治療食をくれただけではありません。地元の食材を使ったお粥の作り方、母乳を与える頻度、きょうだいたちに食べさせる方法などを教えてくれました」

10週間も経たないうちに、食欲は戻り、上腕は13.1cmまで太くなりました。笑い、遊び、歩く姿は見違えるようです。

「支援がなかったら、どうなっていたか…」

お母さんは、恐怖から解放されました。